

COPDの 治療について



呼吸器センター
部長
西村浩一

COPDの治療では、吸入療法を 繰り返し続けることが必要です。

COPDとは、Chronic Obstructive Pulmonary Diseaseの略語で、日本語に訳すと慢性閉塞性肺疾患となります。肺気腫や慢性気管支炎という病名が使用されたことがあります。現

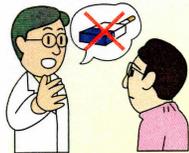
在ではCOPDという病名で統一するように勧められています。長期間の喫煙がその原因で、ど

んどんと増加しており、2020年には世界の死亡原因の第3位になると予想されています。COPDは、肺機能検査（スパイロ検査）で1秒率または1秒量が低下することで診断

されますが、COPDが正しく診断されておらず見逃されているという批判があり、これは簡単な肺機能検査がきちんと実施されていないからと考えられています。

COPDの治療は、禁煙、薬物治療、呼吸リハビリテーショ

① 禁煙



少しでも早く禁煙するのが、最も効果的な治療。

② 薬物治療



気管支拡張薬などを用いて、苦しい症状を緩和する。

③ 呼吸リハビリテーション

●腹式呼吸



●口すぼめ呼吸

呼吸法の工夫や呼吸筋を鍛えることなどで、残された呼吸機能を最大限に引き出し、呼吸を楽にする。



④ 在宅酸素療法



呼吸不全が進んできたら、持続的に酸素吸入を行う。

診療部門より

西村部長の外来は月と金。外来診療は朝から夜まで続く混雑のため、初めての受診の時には、かかりつけ医から地域医療福祉連携室へお問い合わせの上、紹介によるご予約をおすすめいたします。

ン、呼吸不全を合併した場合の酸素療法から成り立ちます。薬物治療は、吸入療法が主体であり、吸入手技の習得が必要であるため、呼吸器センターの外来では繰り返しその指導が実施されます。COPDの治療に、内服薬はほとんど使用されません。中等症から重症のCOPDと診断されると、リハビリ科の外来を受診していただきます。呼吸リハビリが体系的に実施されている施設は、たいへん少ないのが実情ですが、当院では優秀な理学療法士による呼吸リハビリが実施されています。吸入による薬物療法と呼吸リハビリによって、息切れは劇的に改善するでしょう。

さらに、動脈血ガス分析を実施し、動脈血酸素分圧が55〜60 torr以下であれば長期酸素療法が開始されます。これは、生命予後を改善するため、つまり長生きできることを目的とした治療です。医学的にも理解が容易ではないのですが、COPDにおける労作時息切れは、低酸素血症ではなく、動脈過膨脹（エアートラッピング）が原因で、息切れの改善のために酸素を投与するものではありません。治療開始と同時に禁煙サポートも行います。

COPDの患者さんは、気道感染や肺炎などを契機として、急速に病状が進行して悪化することがあり、COPD急性増悪と呼ばれます。この場合は、上記の安定期の外来治療とは異なり、中等症以上では入院が必要となります。



ホームページには、患者さん向けの情報が掲載されていますので、ぜひご利用ください。
COPD-info.net (<http://www.copd-info.net/index.html>)